



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

「一分間の出会い②」

昨年（2017年）、元女学生と再再会した話をしよう。

わが輩は、神戸市開校のシルバー・カレッジで一日講師を勤めることになった。カレッジは六甲山系につらなる高台にある。抜群の環境で展望が素晴らしい。57歳以上の神戸市民が通える3年制の生涯学習施設である。わが居城から2時間ほどかかるが、W教授のご推薦で何度か通うようになった。国際交流・協力コースの学生たちがインドに行くことになったが、どこに行くか、どこで国際協力を視察するか、学生たちが決める。

彼らが捜してきたのが、和歌山県とマハーラーシュトラ州との国際協力関係である。和歌山県はムンバイに出先事務所をもっている。これをプロモートしたのが、有名な小説家でもある大阪総領事のヴィカース・スワループさんである。

2013年8月に州観光大臣のチャガン・ブジバルが和歌山県を訪れ高野・熊野地域を視察し大変感動し、双方の関係がスタートしたと言われている。この男はのちに州副首相になったが、2016年マネーロンダリングで逮捕されている。

いつの間にか高野山奥之院にアンベードカル像を建立する話が浮上してきた。当初の計画は、弘法大師像より大きな像であった。

(そりゃ、あんまりだよ)

はるばるインドから運んでくるのはいいが、台座の費用は誰が負担するのかななどの問題が生じてきた。(そもそも、何の関係があるの?)

アンベードカルはアウト・カースト出身で法務大臣になった偉大な人物である。ヒन्दゥー教から仏教に集団改宗した指導者でもある。つまり「仏教」繋がりである。ブジバルの支持層は仏教徒を含む低カースト層なので、選挙対策のゴマスリ政策だという噂もある。

県庁が絡んでいるので無下にもできない。さりとて奥之院に建立するわけにもいかない。それなら、どこだと思ふ、読者諸氏よ。

(これは、クイズにしておこう)

どうも、わが輩は和歌山とマハーラーシュトラ州の関係が今一わからない。

(まあ、いいか!)

世界遺産アジャンター・エローラ石窟寺院の環境整備に県職員が協力している。その職員を頼りに学生たちは渡印することになったが、その現地コーディネーターが元女学生である。

たった1分間と10分間の御縁だが、厚かましくも「学生たちをよろしく!」とお願いした次第である。

お願いはしたものの、彼女については殆ど知らない。そんな夏の終わりのころ、従兄が電話をしてきた。「おまえが引退する前に、おれたち夫婦を南インドに連れていけ」

2012年に、従兄夫婦と妹と妻の五人で北インドを案内した。従兄の女房殿は、九州の田舎育ちであるのに「虫」が大嫌いだ。ラージギルの法華ホテルで、女房殿が「ギャー！」と叫んで部屋から裸足で飛び出してきた。

(わが輩のほうに驚いたよ)

バスルームにヤモリがいた。それに恐怖を感じたのである。

それよりも嫌いなのは蛇である。呆れたことに蛇の絵にもおびえる。本物の蛇を見たら卒倒する、と言う。

爬虫類嫌いの女房殿が今度は「南インドに行きたい」と言い出した。南インドは蛇とヤモリの爬虫類天国だ。どこに案内するのか、頭が痛い。それに11月の南インドは二度目の雨期である。雨が降ったら台風無しだ。実際われらが帰国して1週間後に大型サイクロンが南インドを襲った。

(We were lucky!)

リスクを半分にするために中央インドのアジャンター・エローラ石窟寺院を選んだ。この辺りは乾期で雨が降ることはまずない。

女房殿の実家は真宗寺院で、住職は55年程前に中外日報主催の第一回印度仏跡巡拝団に加わっていた。同室の永平寺貫首は午前3時に起床し剃髪をしていた。禪の厳しさを目の当たりにしたようである。最も感動したのがアジャンター・エローラ石窟寺院である。その話を聞いて女房殿も関心を持っていた。選んだ理由の一つである。

おっと、その前に南インドの話をしておかなければならない。

そもそも今回は従兄へ「報恩の旅」である。

1960年代末に京都太秦にインド浪人がいて、彼のマンションに入り浸っていた。

「お前はインドに向いている」

汚いからオレは行かないけど、オマエなら行くだらう、いや、行って来いと言った。とにかく、従兄が渡印のきっかけをつくってくれた。

新婚間もないのに、浪人の部屋でマージャン三昧。所在不明で三日間も帰って来なかった。女房殿の恨み骨髄である。その罪を清めなければならない、とわが輩は考えた。それには最南端の聖地で沐浴することである。

「こんなところで泳げるか！」

(水泳じゃない。清めるのだ。わが従兄よ)

そうこうするうちに、わが妻が足を清めだした。

(わが妻にも罪があったのかい。何の罪?)

結局、従兄夫婦は罪を清めることなく聖地を離れた。南端の女神カニヤークマリさまはお怒りではないだろうか。

女神いや女性は怖いよ。ゆめゆめ忘るるなかれ、読者諸氏よ。

次号で、女神はバツを与えるか。